

DESIGN NOTE

デザインノート | 東洋ガラスの開発担当者が最近注目しているコト・気になっているモノ。

Beautiful Bottles 工芸品 vs ガラスびん

暑い夏の日、たまには静かで涼しい美術館でゆっくりと美術鑑賞を楽しみたいものです。数百年も前に作られた美術工芸品を目の前にし、「本当に良いモノは、長い年月を経て時代が移り変わっても輝きを失わないのだなあ」などと感動したり、憧れの気持ちで見つめたりします。



長い年月を経て磨かれた絶妙なバランスや匠の技、手仕事の温かみに触れると心が満たされる気がしますが、これは丹精込めて作られた食品やお酒などの銘品を味わう時にも通じることです。

日本の食文化がグローバルな視点で見直される今、日本に暮らす私たちは、そのこだわりや美意識をデザインに取り込み、新たに表現することが必要になっていると感じます。

「ガラス」という素材は、古代から透明感や色調の美しさから宝飾品として重用されてきました。実用品として使用されるようになった今日でも、透明感と色調の美しさ、幅広い表現力は他のどの素材より豊かです。素材そのものの魅力に加え、印刷やコーティングなど、新しい加工技術も日々進歩を続けています。日本ならではの美意識と食文化を継承していくパッケージとして、グローバルな世界への表現者として、ガラスびんはその魅力を今後どこまで広げていけるでしょうか。

※CGはデザインアイデアです。商品化には詳細検討が必要です。



黒色の背景に、金彩で蒔絵調のグラフィック。凹凸感が加わればさらにクオリティが高まります。



フロスト調ボトルのなめらかな素材感に友禅柄は匂い立つ効果。



繊細なレース柄をコントラストの強いモノトーンにすると精巧さや緊張感が強まります。



スリムなボトルにほどこすと切子の幾何学的な古典柄がモダンな表情に。



籠細工のパターンをボトルのシェイプに添わせることで素材で味わいあるデザインに。